

各種相談先のご案内

行政、民間で、自死の遺族向けに相談を行っているところがあります。また、「こんな相談先はないでしょうか？」など、ご不明なことがあれば、会のスタッフにお尋ねください。

自死遺族向け面接相談(無料)

○愛知県精神保健福祉センター

要予約 052-962-5377

毎月第3木曜日 午後2時-3時30分

○名古屋市精神保健福祉センターこころば

要予約 052-483-2095

毎月第3火曜日 午前10時-12時

LINE通話相談

ONPO法人グリーンプラザ とともに

LINE ID: @700tgyoc

毎月第2,第4火曜日 21:30-翌1:00

法的なことでの相談

○全国自死遺族法律相談ホットライン

電話番号: 050-5526-1044

受付時間: 毎週水曜日(祝日を除く) 12時から15時まで

自死遺族支援弁護団

<http://www.jishiizoku-law.org/>

傾聴電話

ONPO法人グリーンケアサポートプラザ

電話番号: 03-3796-5453

火、木、土 12:00-16:00

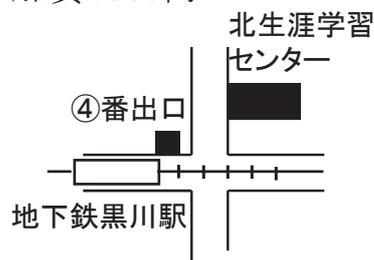
次回の遺族会

第115回

4月9日(日) 13:15から

名古屋北生涯学習センター
地下鉄名城線「黒川」下車
(4番出口)よりすぐ

参加費:500円



その次は...

第116回 2023年6月25日(日)
名古屋北生涯学習センター

日程は、ホームページ、Twitter、または、電話案内でご確認いただけます。

●ホームページ

<https://remember-nagoya.org/>

●Twitter アカウント

@remember_nagoya

●電話案内(録音でのご案内)

090-8544-9408

自死遺族によるネット座談会

「スーカフェラジオ」のご案内

他団体からのご案内です。「スーカフェラジオ」として、自死遺族によるネット上での座談会が、偶数月の土曜日に行われます。詳しくはホームページをご覧ください。主催:スーカフェ名古屋 <http://gatekeeper.jp/griefsupport/sucafenagoya/>

ホームページアドレス変更

<https://remember-nagoya.org>

会のホームページのアドレスが変更になりました。

Twitterでの開催案内を開始

https://twitter.com/remember_nagoya



Twitterで、会の開催日時などを、ご案内します。

「リメンバー名古屋自死遺族の会」

アカウント: @remember_nagoya

-感染への不安を減らすため、ご協力をお願いします-

- ・アルコールでの手の消毒など(アルコールは準備します)。
- ・マスクをお願いします(予備は受付で準備します)。
- ・トーキングスティック(話す人が合図として持つもの)を使わない形で行います。
- ・大きめの輪か、できるだけ弧に近い形にします。
- ・お茶など飲み物は各自ご持参ください。

新聞郵送をご希望の方へ

1月~6月末までのお申し込み(前期)…1000円

7月~12月末までのお申し込み(後期)…500円

詳しくはスタッフまで

スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。

詳しくはお問い合わせください。

近隣の遺族会のご案内

以下中止・延期の場合もありますので、直前にご確認の上、お出かけください。

次回「ディアレスト」のご案内

家族ではないけれども大切な人を自死で亡くされた方を対象に、遺族会「ディアレスト (Dearest)」が開催されています。

日時：2023年5月14日(日) 14:00 - 16:00

場所：名古屋市中村生涯学習センター 2F 美術室

対象：家族以外の人(恋人・婚約者・パートナー・親友・同僚・上司・部下・先輩・後輩・先生・生徒、など)を自死(自殺)で亡くされた方

参加費：500円

連絡先：the.dearest1@gmail.com

<http://dearest.heya.jp>

「～こころの居場所～AICHI自死遺族支援室」のご案内

今回の「自死遺族ミーティング」(分かち合いの会)、個別相談は以下となります。事前予約制です。

日時：2023年5月21日(土)

①13:30-14:45 ②15:15-16:30

ミーティング：各時間帯につき7名

個別相談：各時間帯につき1名

場所：名古屋市政資料館 第1、第2集会室
名古屋市中区白壁一丁目3番地

参加費：500円

申込：メール、ホームページの問合せフォーム

申し込み期限 5月20日(土) 17:00

連絡先：cocoroibasyo@yahoo.co.jp

<http://cocoroibasyo.org/>

「いっぷく処」のご案内

さまざまな宗派の僧侶の方が集った「いのちに向き合う宗教者の会」による、自死遺族のわかちあいの場として「いっぷく処」があります。

次回日程など詳細は下記までお問い合わせください。

連絡先：info@inochi.in <http://inochi.in/>

その他、近隣の自死遺族のわかち合いの会

岐阜「千の風の会」・・・

岐阜県精神保健福祉センター 058-231-9774

三重「わかちあいの会」・・・

三重県こころの健康センター 059-253-7821

浜松「浜松わかちあいの会」・・・

浜松市精神保健福祉センター 053-457-2709

その他、全国に自死遺族の分かち合いの会があります。

詳しくはお問合せください。

りめんばー

最近、学生時代に買って、読まずにそのままになっていた小説を何冊か読みました。購入した何十年か前も、もちろん読むつもりでいたのですが、数ページ読んで挫折していたものでした。まだまだ人生経験も浅かった学生時代の自分には、物語に込められた作家の思いとの接点はなかったのかもしれない。

特に長編の小説を読んでいると、時に忍耐を強いられ、やめたいという誘惑と戦っている時があります。作家は、読者がかける時間とは比べ物にならないくらい膨大な時間をかけ、もう書くのをやめたいという気持ちも時には生まれているのではないかと想像します。小説には、作者と読者の双方が時間と労力をかけ、それでもやっと思いが伝えられるかどうかという、とてもあやうく、報われないむなしささえ感じる時があります。

身近な人を亡くした時の思いは、「つらい」「悲しい」「苦しい」……、単語にしたら、ほんの一言で終わってしまうのかもしれない。もちろんその単語に至るまでに、亡くなった人との膨大な時間があり、亡くなった時のこと、その人のいないこれからの自分の人生の物語は、きっとどんな厚い本にしても書ききれないものだと思います。「つらい」「悲しい」「苦しい」は物語のタイトルにすぎず、物語はそこからページをめくっていかないと、始まりもしないのかもしれない。

自分自身、誰かにわかってもらいたい思い、伝わらないじれったさ、伝えようとすゝるエネルギーの欠乏、伝わらないあきらめ……、さまざまな思いが、もやもやとうごめいています。

想像するに、きっと小説家も、同じようなじれったさ、あきらめも併せ持ちながら、ぎりぎりのところで書いているような気がします。伝わらなかったとしても、わかってもらえなくても、読んでもらえる、一緒に物語の時間を過ごしてくれる人がいることが、唯一の救いであるのかもしれない。この欄を書いている自分自身がそうであるように。(KN)